

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

パリから戻って少子化対策やっています



群馬県健康福祉部こども未来局少子化対策・青少年課次長 西 和一

井の中の蛙とはよく言ったもので、異動する先々で睥目してきたけれど、CLAIR での仕事ほど地方公務員としての私にさまざまなことを教えてくれたものはなかったように思います。

一度目のパリ勤務は、外国暮らしや仕事が目面白く、山下所長に教を請い、右往左往しているうちにあっという間に2年が過ぎました。ちょっとした訳の違いでお互いを見誤る、というのを肌で感じ、帰国してから「情報を鵜呑みにしない、一歩引いて考える」というスタンスで仕事するようになりました。

二度目は、次長として赴任し、ひとかたならぬお世話になった、黒瀬所長、荒井所長のもと、この3月まで事務所のとりまとめにあたりました。今ほど欧州で日本の地域の物産・食品がウケている時代はなく攻勢の時期と知ったこと、そのほか得たものはたくさんありましたが、今回は、妻子とともに赴任したことも手伝って、「どうして、フランスの合計特殊出生率は日本のそれよりも断然高いのか」というのを自分なりの課題としました。

それにしても、フランスでは子どもが生まれておりました。世界都市パリでも、建築制限もある古い街並みにあって、保育園、幼稚園、学校は、自分のアパートマンの近くにも、通勤路にもいくつもありました。由緒ある公園や近代的な公園もそこかしこにあり、雨さえ降らなければ、寒くても、元気な子どもたちの声が絶えずこだましておりました。

消化が労使双方の義務の有給休暇、家族手当や税の優遇、充実した休業補償、幼稚園から大学までほとんど経費がかからないことなど、所得の多少にかかわらず、安心して子育て、仕事ができる環境が整っているといえます。自治体の首長や職員も自身の街の放課後児童クラブの施策に鼻高々でした。なにしろ、家族支援に係る予算がGDPに占める割合は日本の倍以上というのです。

失業率が高く経済が好調とは言えない中、こと子育てに関しては国の最優先事項であり、そうしたことに金を使うことは国民のコンセンサスを得ていると感じました。

また、子どもは国の宝、というか、社会全体で子ども・子育てを見守るという雰囲気があふれておりました。メトロの階段では上り下りするのに難儀しているべ

ビーカーにすつと手が伸びて助けてくれる、着座も最優先、街や公園や商店でいたずらする子がいれば、どこの子だって大人がたしなめる(昔の日本のよう)、といったことを目の当たりにしました。



フランスでの仕事のひとコマ・アルル地方で日本の自治体の取り組みを説明

少子化対策という名の政策はないけれど、さまざまな対策や社会のありようが少子化に歯止めをかけたように見えます。

パリでの見聞のせいかどうかわかりませんが、県庁に戻って少子化対策の仕事を任されております。晩婚化対策やら、ワークライフバランスの更なる充実やら、誠に困難な課題ですが、フランスの取り組みのよい点を紹介しつつ、前向きな同僚たちと日々群馬らしい政策を考え、実行しているところです。

CLAIR パリの業務内容にあまり触れず、本文がこのコーナーにふさわしいのかどうかおぼつかないのですが、これから CLAIR で修行する若い職員に心から喝采しつつ、筆を置きます。

ひとりっきりの東京の一年はつらいと思うことがあるかもしれません。「選ばれてきているんだ」とあんまり力まないのが肝要かと思います。同じ気持ちの隣の同僚と何でも話してみましょ。翌春には実りある海外事務所勤務が待っています。そして、自治体に戻ったら、CLAIR での経験がきっと役に立ちます。

プロフィール

- CLAIR での経歴：
2000年4月～2001年3月：東京本部総務部企画課 主査
2001年4月～2003年3月：パリ事務所 所長補佐
2013年4月～2015年3月：パリ事務所 次長
- 趣味：フランスを知ること、フランス語